

# 筒森トンネルだより

## 新筒森トンネル本体工事完了

地元の皆様に長らくご迷惑をおかけしましたが、新筒森トンネル本体工事における現場での作業は完了いたしました。

5月中旬にトンネル内の舗装工事、下旬に盛土工事、トンネル銘板工事と予定どおり進みました。

左および右下の写真2枚は、トンネル内から両方の坑口に向かって撮影したものです。トンネル内の車道部は総幅員が7.5メートルの2車線です。車道の外側には点検のための監査廊が設けられています。



トンネル内より大多喜側



トンネル内より君津側

今後トンネル内に区画線(道路中心線と外側線)がひかれ、また、トンネル内の照明灯設置工事も行われると聞いています。

下の写真は大多喜側、君津側の着工前と完了後を並べたものです。

大多喜側はトンネルの直前まで道路工事が進められていました。正面右に見える尾根を削り込み、左奥の沢に堰堤を作り坑口部を安定させてからトンネルを貫通させました。

君津側も大多喜側と同じようにトンネル直前まで道



大多喜側完了



大多喜側着工前

路工事が進められていました。正面の法面を整形し、坑口部を安定させてから、トンネルを掘り始めました。

トンネルの上に皆様のお住まいが点在していることから、沈下等影響がないよう十分配慮しました。

トンネル内の安定を図り地表面変位を抑えるため、補助工法を使いながら無事に工事が完了しました。

左下の写真は、空中写真



空中写真とトンネルを合成



君津側完了



君津側着工前

とトンネルを合成させたものです。改めて皆様のお住まいの真下を掘ったことが実感されます。

バイパスとしての開通は平成24年度末(平成25年3月)の予定と聞いています。開通後は皆様の安全安心な生活道路と、外房と内房を結ぶ幹線としての役割が期待されています。

工事中は車両の出入りや騒音などでご迷惑をおかけしました。紙面を借りてお礼申し上げます。いろいろとありがとうございました。

### トンネル余話

私たちはトンネル工事の専門技術者集団です。だからなのか、普段の生活でもトンネルに出会うところがあります。

道路を車で走っていたり、電車に乗っていたり、映画やゲームの中だったり、TDLのアトラクションだったり、とにかくトンネルに出会うと「ウーン」と思ったりします。

たとえば車で走っている前方にトンネルの入り口が見えてきて、やがて真っ暗なトンネルに入り、暫くすると明るい出口が近づいてきて、また晴れやかな外の世界となる。こんな流れから川端康成の小説「雪国」に書かれた、「トンネルを抜けるとそこは雪国だった」と言う名文が生まれたのかなんて思ってしまう。

人間は二足歩行を始めてすぐの頃、洞穴を住居にしていた記録が世界各地に残っています。その頃の遙か彼方の記憶が、習性としてどこかに残っているのでしょうか。

工事期間中の短い間でしたが「地球に開いた穴」の駄文におつきあい頂き、ありがとうございます。